

ジョジョの奇妙な冒険第4.5部[氷とカメラの二重奏]

吉良吉影に憧れる者

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

スタンダードルールを無視してまで出来た黄金に輝く漆黒の魂とは？
死してなお、ジョースター家を苦しめるDIOとの因縁

これは、ジョジョでは無いジョジョの、奇妙な人生の冒険譚である。

目次

未だ氷はなくカメラは壊れそう

未だ氷はなくカメラは壊れそう

【スタンド】

それは精神が作り出す、形ある像^{ビジョン}

スタンドにはいくつかルールがある。

スタンドは、一人につき一つ

スタンド使い以外には見えない

スタンドに触れられるのはスタンドのみ

スタンドは本体の意思によって動く

スタンドが受けたダメージは、本体も受ける

スタンドは、本体から離れて行動するには距離の限界がある。

スタンドは、特殊な能力を一つ持つ

スタンドは成長することもある。

e t c ……

これらのルールをぶつちぎってしまった一つのスタンド使い、そしてスタンドの話

【彼】は、いじめを受けていた。

ぶどうヶ丘高校1年生「千塔寺創」（せんとうじつくる）

いじめの原因は、彼自身では、よく分からなかった。

なんでも、上級生の不良グループに、絡まれてすぐに財布を出してしまい、ちよつと脅せば出すもの出すと思ったかららしい。

いじめの内容は酷いものだった。

恐喝はいつもの事、毎日青あぎを作るほどの暴力、クラスメイトのほぼ全員から言われる、罵詈雑言の数々、元々気が弱く、細身の体が、それらを助長させた。

夏も終わりが近づく、秋口の事だった。創が矢に射抜かれるのは

「金、いくら持ってきたの？」

一人に言われる。

「ハハハッ、と、とりあえず1万円かな？こ、今週は、それで勘弁して

よ。」

創は、殴られない様にヘコヘコしながら、乾いた笑いを漏らしながら、紙幣を出した。両親は中々の会社に勤めていていわゆる金持ちだった、教育熱心ではあるが、基本出来の悪い弟（創）には、興味がなく、欲しいと言ったものを適当に買い与える、ペット以下の存在だった。

「おー、やるじゃん。諭吉さんこんにちはー」

さっきのやつとは別のヤツが笑いながら創の持つ1万円札を、奪い取ると、乱雑にポケットにしまった。

「んじゃ、明日も1万ね」

明日も持つてくるように命じると、

「む、無理だよ。こ、今週は、これで勘弁してよ。」

そのささやかな、抵抗に苛立ちを感じたのか、

「うるせえッ！さっさと金持つて来いよ！殺すぞ！」

と、ガタイのいい奴が怒鳴る。

「ねえねえ、変な矢が落ちてたよー刺しちやおうよー」

禍々しく、どこか魅力的でもある、古ぼけた矢を、創に向ける。

「金持つてくるか、これで死ぬか、選べ！」

そう言つて矢を近づける。

「い、1万円でしょ。わ、分かったよ、も、持つて、く、来るよ」

矢を引つ込めようとする、まるで、矢が勝手に、動いたように創を射抜いた。

「な、何してんだよッ！おおい は、早く抜けよオオ」

「抜けねエエよオ、どうすんだよオー！」

二人が慌てているとまた、矢が勝手に動き、抜けた。

「が、ガクガク、アッ、アッ、アッ、アッ、グブ」

創は、血を吐き、生と死の間を、さまよっていた。

「こいつまだ、生きてるよオ。びよ、病院連れて行かないと、まだ、間に合うかもよ?!」

「だ、ダメだ、今連れていったら俺たち捕まるぞ?」
すると、

「か、完璧に殺せばいい。死体は隠そう。」

とガタイのいい男は言った。

「みや、脈を止めよう。人の手首辺りに脈つてのがあって、そこを切ると死ぬらしい！」

レベルの低い三流映画の信憑性が低い知識だった。

「お、おう、いくぞッ!!ふん！」

創の、手首を貫くようにもう1度刺された矢はあっけなく抜け落ちた。今度は溢れる様に血が噴き出した。

二人は叫ながら近くの茂みに投げた。

「うん?何だかうるさいなあ?また、スタンド絡みの問題かなあ?」

「ん?【康一】、スタンド使いがいたのかあ?」

そう言うのは、余りにも低すぎる身長、柔らかそうな表情をしていても、どこか、頼りになりそうな頼もしい少年と、特徴的なリーゼントに、明らかに真面目とは言えない改造を施した制服に身を包む、青年がいた。

そして、創を虐めていた二人の次に叫ぶのは助ける二人だった。

「う、うわあああ!ひ、人?じよ【仗助君】」

「お、おう!『クレイジーダイヤモンド』」

彼のスタンドクレイジーダイヤモンドは、破壊されたものを治す能力がある。

「ドラァ」

独特のかけごえで、創に触れると、傷がみるみるうちに全て消えていった。

「仗助くん　　これ、弓と矢だ!この子は矢に射抜かれたんだ。」

康一の顔は、恐怖の表情から、驚愕の表情に変わった。

それもそのはず、一年前に恐ろしいスタンド使い、『吉良吉影』にスタンドが発現したのもこの弓と矢によるものだからだ。

「つまり、こいつはッ!」

「「スタンド使いになる!?!」かもしれない!」

t o b e c o n t i n u e d